



## 申6号 2020年度年末手当等に関する申し入れ団体交渉を行う！①

### —第1項—

#### ■ 景気動向について

■ 景気が回復基調にある。

DI(景気ウォッチャー調査)も2018年4月以来の数値に回復しており、中小企業も同様である。原油価格も横ばいの見通しもあり動力費にも効いてくる。景気が上向いてくる局面であり、追い風だ。景気を前進させるためにも支払いを行うべきだ。

### 組合

## 申6号交渉 議論要旨

### 会社

■ 景況感は回復してきている。

しかし、DI横ばいを示す50に到達していない。新型コロナウイルスが世界的に感染が拡大するかもしれない。産油国で拡大すれば供給不安も出かねない。日本の景気に加え、世界情勢などもみて判断していくことになる。

#### ■ 会社の業績について

■ 直近の業績だけでなく、コスト、収入の状況、今後の動向を見て検討するのか。

■ 業績予測を見ると、2020年度末において定期が85%、定期外の在来関東が80%、新幹線55%となっている。来年度以降は定期収入については85%。在来関東85%、新幹線が80%ということだが、ワクチンが出来るという前提なのか。

■ 第2四半期計画において、鉄道収入が91億円プラスになっている。要因は何か。

■ 職場は赤字の中で、どう黒字に向かうか努力している。職場は、自分たちが頑張ってきたからと考えている。

■ 今までのそのような部分を踏まえてであり、スタンスは変わっていない。

■ あくまでも予測である。回復見込みとして出している。

■ 利益も予測値より上がっている。良いか悪いかを評価するものではない。

■ 努力は会社としても受け止めている。感謝を申し上げたい。

#### ■ この間の期末手当の支払いについて

■ 2016年度から期末手当は据え置きになっている。増額を求める組合に対して、会社は「固定費の割合、収入やコストの状況、今後の動向」を見ると回答し、交渉では、「公共性」と回答された。固定費の高さを問題にして、期末手当を据え置いてきたのではないのか。

■ 社員個々のベースは上がっている。決して率が同じだから、据え置いているという認識はない。

組合員はどのように実感しているのか!?

#### ■ 株主配当について

■ 株主配当だが、中間50円、年末50円で、年間100円となり、総額380億円になるのか。

■ 赤字における株主配当の考え方を伺いたい。

■ 手元の資料にないが、年間で100円の配当になる。

■ 出来るかどうかと、その時の状況で、しっかり見極めながら判断する。株主の所有が安定しているかどうかで経営の安定に関係する。株主配当が去年の165円から100円なので、かなり減配になっている。

■ 社員のみなさんにお支払いする賃金は様々ある。賃金だけではないが、基本としては変わらない。

会社は職場の声に応えるべきだ!

■ 営業利益が出ている以上、利益還元としても株主だけでなく、社員にも還元すべきだ。その還元の仕方は様々あるが年末手当もその一つである。

営業利益を出したのは職場の努力だ! その②へ続く